

2017年度総会報告

東大和障害福祉ネットワークの第12回総会&構成団体懇談会が5月30日(火)13時より中央公民館301号室にて開かれました。ネットワーク役員を含め、13団体、29名の方に参加していただきました。また、当日は寄付をいただきありがとうございました。

第一部の「総会」は2016年度活動報告、会計・監査報告に続き、2017年度予算案・活動計画案の提案があり、全会一致で承認されました。また、会則の改訂も承認をいただきました。事業所所在地、役員構成など現実に見合った状況になりました(会則は3ページ)。2017年度役員紹介。新たに「手・指の会」が構成団体になって頂いたことを報告しました。休み時間には映画「ずっといっしょ」予告編を上映させていただきました。

構成団体懇談会

構成団体の方々にアンケートをさせていただきました。アンケートの結果、事業所では「狭い」「賃金アップが難しい」「スタッフの給料が安い」など、当事者は「高齢化、若い会員が増えない」などの問題が見てとれます。それを基にして次のような意見が出ました。

- ・「工賃アップ」はどこでも難しく、加算などの仕組みにも問題がありなかなかうまくいかないことも多い。
- ・施設が狭く、広い場所をさがしても難しいことが多く、行政の協力が欲しい。また、近隣に気を使い理解を求めていくことが大切。
- ・利用者の高齢化が課題。
- ・利用者間の工賃の差(出勤日数の差)が課題。
- ・新しい会員を増やしたくても個人情報などの壁がある。
- ・スタッフの確保が大変。知的障害児と一緒に走ったりプールに入ったりできるスタッフがなかなかいない。ヘルパーもかなり不足している。
- ・立川伊勢丹の4階に「KUJUMILU(クルミル)」ができました。

皆さんの発言を聞いたり、アンケートの結果から、いろいろな課題を知る「はじめの一步」になったように思います。今後も継続的に多くの課題を共有し、懇談会も定期的の実施できたらよいと思います。

また、まだ情報等が行き渡っていない障害者にネットワークのことを知ってもらう努力をしていきたいと思っています。



2017 年度に向けて

皆様こんにちは。私は東大和障害福祉ネットワーク代表の水谷雅弘です。

平素は、東大和障害福祉ネットワークの活動に対してご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。ここに謝意を表します。

さて、昨年4月に障害福祉に関する法令、「障害者差別解消法」と「改正障害者雇用促進法」が施行されましたが、その成果はあまり実感できていません。そのような中で都政が小池都知事になり、東京都は「障害者への理解促進及び差別解消のための条例」を2018年10月までに制定するとしました。これは全国では23番目になるそうですが、東京都が『共生社会（インクルーシブ社会）』を実現させるための起爆剤になることを祈り、この進捗を注視していきたいと思っております。

また今年は、第3次東大和市障害者計画・第4期東大和市障害福祉計画の実施の最終年度になりますが、同時に平成30年度から向こう3～5ヶ年の障害者政策の計画策定の年でもあります。

今回のポイントは、障害児福祉計画の策定が義務付けられたことです。

国は、内閣府と障害者政策委員会で第4次障害者基本計画を、厚労省で第5期障害福祉計画と第1期障害児福祉計画を策定します。これに順じて、東京都は福祉保健局と第8期障害者施策推進協議会で、東大和市は福祉部障害福祉課と第8次地域福祉審議会で第4次障害者計画・第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画を策定します。

このように今年は障害福祉の将来を担う重要な年であり、これらに対応していくためには、障害福祉関係者の結束力を強め、一致団結して取り組んでいく必要がありますが、今期は以下の5項目を重点施策とします。

【基本姿勢】

- ① 障害福祉制度が適切に策定・運用・運営されているかを注視し、必要に応じて是正に取り組む。(昨年度と同等)
- ② 行政や議員、地域自立支援協議会、社協などと協力し合い、是々非々を含めて障害福祉の向上に貢献していく。(昨年度と同等)

【ネットワークの活性化】

- ③ ネットワークの構成団体との連携を強化し、構成団体の現状や抱えている問題課題、あるいは効果的な独自工夫の取り組みなどを共有し、構成団体の活動力の底上げを目指す。(昨年度より強化)
- ④ 様々な障害者や地域社会との相互理解を促進していくために、行事や催し物の実施、文化芸術的作品の発信を通じて交流を深めていく。(昨年度より強化)
 - ・自主上映『ずっといっしょ。』（うまれるシリーズ）の成功に注力する。（終了）
 - ・市民運動会や災害ボランティアセンター協議会の行事にも関わっていく。
 - ・障害者等の文化芸術的作品（エッセイ、詩、イラストなど）を募集し、発信する。
- ⑤ 常に2～3年先を見通し、イベントの企画や施設・会場等の確保、そしてそれらを実行する財政の維持を図る。特に財政に関しては、次年度繰越金を毎年20万円以上とすることで、財政の健全化を図る。2020年度を達成目標とする。

障害者施策の向上や障害者の問題課題の解消の歩みは、ゆるやかではありますが、確実に進んでいます。このことは、私達にも粘り強い取り組みが必要である、ということを示唆しています。私は、当ネットワークの認知度向上を含めて、地道ですが諦めることなく着実に活動を進めていく所存ですので、今後どうぞ宜しくお願いします。

東大和障害福祉ネットワーク 代表 水谷 雅弘

会則の改定

会則について、下線部分について見直しを行い、5月30日の総会にて承認が得られました。

東大和障害福祉ネットワーク 会則

(名称)

この会は、「東大和障害福祉ネットワーク」という。

(事務所所在地)

この会の事務所は、代表または副代表の所属団体におく。

(目的及び活動)

この会の目的は、情報共有・情報提供や意見交換をはじめとする地域住民と一体となった交流活動による、東大和市の障害福祉全般の向上および発展とする。

上記の目的を達成するために、東大和市の障害福祉に関する以下の活動を行う。

- 一 情報共有／提供と意見交換
- 二 会員相互の交流活動・相談活動
- 三 地域住民にひらかれた自由なネットワークづくり
- 四 学習会、シンポジウム、フォーラムなどの開催
- 五 必要に応じて国、都、市に対する要請行動
- 六 その他この会の目的にかなうこと

(組織と財政)

- ① 本会は、本会の目的に賛同し、参加申込書を提出した団体及び個人をもって構成する。
- ② 本会は年に一回総会を開き、活動のまとめと方針、決算と予算、加入と脱退、役員及び監査、その他必要な事項を協議、決定する。
- ③ 本会には、代表1名、副代表、書記、会計、世話人若干名、監査1名を置き、代表、副代表、書記、会計、世話人をもって役員会を構成し、本会を運営する。役員会は必要に応じて代表が招集し、必要事項を相互の理解を前提に決定する。監査は必要に応じて役員会に出席し意見を反映させる。
- ④ この会の財政は寄付金及びその他によってまかなうこととする。

(加入と脱退)

この会の目的および活動に賛同し、継続して参加する意志のある者であれば、団体でも個人でも会員となることができる。また、この会を脱退するときは役員会に申し出ることとする。

付則：2006.7.3 施行

付則：2017.5.30 施行

東大和障害福祉ネットワーク 障害者交流祭り 2017



2017年1月19日(木)中央公民館ホールにて「障害者交流祭り」を開催しました。当日は多くのネットワーク構成団体の参加があり、約200人が一堂に会しました。内容は、参加団体による演目披露(歌・楽器演奏・創作ダンス)、東大和障害福祉課の職員さんによる漫談等、盛りだくさんのパフォーマンスが展開され、会場は楽しい熱気に包まれました。また後半はクイズゲームに全員で参加、最後はピアノ演奏に合わせ、みんなで合昌して終了しました。

今年、東大和障害福祉ネットワークは、設立から11年目と次の10年に向けて新たなスタートの年となり構成団体も26団体にまで成長しました。そこで、この節目の年に皆さまとともに大いなる楽しめるイベントとして「障害者交流祭り」を企画しました。皆さまのお蔭で、楽しい交流祭りとなりました。

また、お手伝いして下さいましたボランティアの皆さま、ありがとうございました。今後も、楽しい行事を企画していきたいと思っておりますので、ご期待下さい!



「ずっと、いっしょ。」上映会

3年前の上映会で大きな感動をよんだ、映画「うまれる」、その第2作「ずっと、いっしょ。」ができ、虎ちゃんの成長や新たな家族の姿を描いた、第1作を上回る感動的なドキュメンタリードラマということで、ぜひまた東大和で上映しようと、7月8日(土)ハミングホール・大ホールにて、上映会を行いました。

3か月前には、チケット、チラシ、ポスターの準備ができ、ネットワーク賛同団体にも呼びかけ取り組みを開始しましたが、チケットの普及は思うように伸びず、赤字になってしまうのではとハラハラ・・・1か月を切り、目標の400枚の普及に向けて、猛ダッシュ!

賛同団体はじめ、あらゆるつながりを活かして、行く先々で「うまれる」の訴えをし、最終的には、当日券を含めて415枚となり、目標を達成する事ができました。

この上映会のために、視覚障害の方も楽しめるように音声ガイドを作ってください、準備万端・・・障害をもって生まれた虎ちゃんの成長、最愛の妻を亡くした夫、再婚で血のつながらない子と向き合う父親、それぞれの家族の姿に胸をうたれ、会場は涙と笑いと大きな感動に包まれました。そして映画が終わった時、「ずっと、いっしょ。」という言葉が心に深く響いて、いつまでも残っていました。

終了後104名の方からアンケートをいただき、「自分の家族と重ねて、感動した」「家族の絆、親子の絆を感じた」「命の大切さ、あたたかい気持ちになった」などの感想をいただきました。

また、会場でお願いした「おひねり」には、207名の方がご協力くださり、集まったご寄附は、約10万円を超え、上映会の利益とともに、これからの障害福祉ネットワークの大きな活動資金となりました。

今回の上映会のために、ご協力くださった皆様、いらしていただいたお客様、本当にありがとうございました。



東大和市総合福祉センター「はーとふる」インタビュー ～設立一周年を迎えるにあたって～

平成 29 年 9 月 5 日(火)13 時から 14 時、はーとふるの多目的集会室にて、藤田十三夫総長、二場美由紀所長、畠山直己課長にお時間をいただき、「はーとふる」の事業が始まってから約一年経った現状についてお話を伺いました。

—— 自己紹介をお願いします ——

今年4月1日からお世話になります総長の藤田と申します。

ご案内の通りここは特別養護老人ホームも兼ねておりますので、障害の部門と特養の部門の総括責任者ということで就任させていただきました。キャッチフレーズにもありますが『心より障害者の方の支援をする』東大和市総合福祉センターはーとふる」と言うことで、東大和市の地域福祉の拠点として開設できました。私どもも使命感を持って、職員一丸となって利用者様にご理解いただけるように生懸命勉強しながら、より良い運営ができますよう努めて参りますのでご理解を賜りますようお願いしております。

—— 一年経っての実績はどうでしょうか？ ——

各部の皆様が頑張っていることもあって、1年頑張ってくよこまでもってきたなという気持ちの方が強いです。私の気持ちの中では100%に近い状態で頑張っているなと思っています。今後また色々皆様のご意見を聞きながら、さらにより良い設営ができるようにしていかなければならないと思っております。

—— 東大和市からの制約などはありますか？ ——

福祉の拠点ということで東大和市の期待はかなり高いと思います。できるだけ期待に応えられるように、安心・安全の確保がありきということで、定期的に市とも意見交換しております。これだけの事業をやっておりますので「一気に」というのはなかなか難しいです。そういったところ等ご理解いただきながら、しっかり市にもご理解いただきながら事業の進展に努めているといったところです。

—— 今後の課題と展望について伺います ——

職員の質を高めつつ利用者様に質の高いサービスを展開できるように、職員の協力といいますか研修などに力を入れながらサービスの質の向上が課題と言いますか、今後の最大のテーマでもあります。それによって市民の皆様にも期待される「総合福祉センターはーとふる」にしていかなければいけませんので、全体のサービスの向上をはかっていき頑張っていきたいと思っております。

—— 第三者委員会の設置について ——

第三者の評価は大事だと思うので、そこは今後成熟させていただく過程で検討課題だと思っております。今後ともお力添えいただきながら頑張っていこうと思っておりますので、よろしくお願い致します。

—— 短期入所について ——

皆様のご希望に応えさせていただきたいのですが、現在夜勤が可能な看護師がいないため夜間に看護師による医療行為が必要な場合は、お泊りの受け入れが難しいのが現状です。現在、看護師の求人をしております。

—— 審査の期間について ——

なるべく早くという事に対応させていただいております。以前は1ヶ月かかっていたこともありましたが、今は改善させていただき出来るだけ速やかにご連絡申し上げます。

皆様には利用したいときにご負担にならないように「利用するかわからないけれども、万が一に備えて」という事で結構ですので、登録とご契約を済ませていただくようお願いしているところです。

登録だけでは電話一本でお受けすることは出来ませんので、登録をして契約の取り交わしを早めにしていただけれ

ばと思います。

—— 情報交換コーナーが奥まっいて狭く、入りづらいのですが ——

おっしゃるとおりです。出来るだけ車椅子の方もスムーズに入れるよう、色々試しているところです。情報交換コーナーの充実に関してはそのスペースだけでは限界がありますので、どのようにすれば良いか皆さまにご意見を募っているところです。

—— 短期入所等の利用後にアンケートで感想や要望を聞いて欲しい ——

日中一時支援の受け入れを、小学生など小さい子まで少しずつでも広げていって欲しい ——

ありがとうございます。

成人の施設でできる事が限られてしまって恐縮なのですが、そういった形の皆様のご意見ご要望に応えていきたいと思っております。現場の支援員もとてもやる気があり、お子様達をみるのも大好きなので、市の考えを聞きながら検討をしていきたいと思います。

—— サービス内容について ——

	サービス内容	利用状況	定員
障 害 部 門	障害者相談支援事業 (相談支援員)	140名 (3名)	
	ケアラー支援事業	4~5団体	
	生活介護	33名	定員 50名
	就労継続支援 B 型	27名	定員 44名
	就労移行支援	1名	定員 6名
	宿泊型自立訓練	2名	定員 14名
	通所型自立訓練	2名	定員 10名
	日中一時支援	約 20回	定員 2名
	短期入所	12~13名	定員 2名
部 門 高 齢	特別養護老人ホーム	36名	定員 54名
	短期入所生活介護	4名	定員 6名

平成29年9月現在



ぽっぷの紹介

平成 29 年 10 月 1 日より、放課後等デイサービス“ぽっぷ”を南街に開設します。市内で 4 か所目になります。自分の空間・安心できる居場所を目指して、音楽やダンス、造形、クッキングなども取り入れつつ、個人のニーズに合わせて快適に過ごす事を出来るよう、心配りしていきたいと思っています。外遊びにも出かけます。たくさん子ども達の笑顔が見られる場となる事を願っています。どうぞよろしくお願い致します。

合同会社ソエル 林



『山ぼうし』の紹介

はじめまして『山ぼうし』と申します。食工房ぱるがバックアップ施設とし、男性 5 名、女性 5 名のグループホームです。'山ぼうし'は 5 月頃、白い花をつける樹木から、命名しましたが、利用者の方々の発案で“山”に“帽子”だ!! となりました。三年越しの希望が実り、高木にて 9 月 1 日開所するに至りました。どうぞよろしくお願い致します。まだ誕生まもなくです。皆様のご支援宜しくお願い致します。

NPO 法人 食工房ぱる 青木



法人本部の建物ができました！

この度、多くの方々のご支援を得て法人本部事務所を建てることができました。

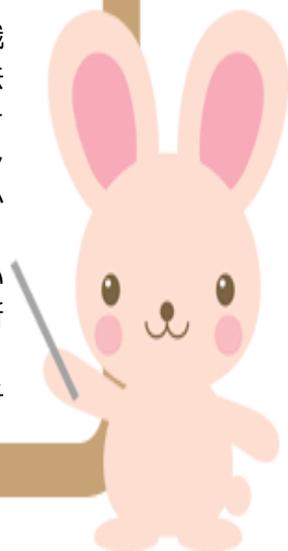
1階は放課後等デイサービス「デイグループぱーく」です。「この指とまれ」としては2か所目、東大和市内では3か所目の放デイ事業所です。長く待っていただいていた方が利用を開始し、週に何日かは定員に達しています。以前より運営している「デイグループほっと」と合わせ、それぞれの特徴を生かし運営していきます。

2階は「法人本部」と「ホームヘルプじょい」「相談支援にじ」の事務スペースです。

「この指とまれ」は平成27年にNPO法人から社会福祉法人になりました。組織を整え後世に引き続いていきたいからです。また、事業が増えるに伴い、NPO法人会計ソフトが対応できなくなったという要因もありました。事務量が増大し、それまでのスペースでは賄いきれなくなりつつありました。アパートを借りて運営してきた「ホームヘルプじょい」「相談支援にじ」も安定した運営の為に引っ越しが必要ができてきていました。

安心して事務が出来るスペースができてほっとしています。まだまだ足りない事が多々ありますが、ご協力いただいた方々のご厚意に感謝して、運営していく所存です。よろしくお願いいたします。

社会福祉法人この指とまれ 理事長 鈴木真千子



<新規加盟団体紹介！> 手・指の会

目と耳の両方に障害のある人を「盲ろう者」と言います。全く見えず全く聞こえない人から、見えにくくて聞こえにくい人まで、すべて盲ろう者です。

人間の五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）のうち、情報を受け取るための視聴覚に障害があるとどんなに生活が不便になるか、想像してみてください。外出も、テレビや新聞を見ることも制限されてしまいます。人との会話も難しくなり、家に閉じこもる人もたくさんいます。

盲ろう者とのコミュニケーションは一人一人の状況に合わせてさまざまです。点字をもとにしたもの、手話をもとにしたもの、筆記をもとにしたもの、残された視力や聴力を活用したもの、また最近ではパソコンを使用したものまで、大きく分けても10種類以上あります。盲ろう者同士でもコミュニケーション方法が違えば会話が成り立たないという問題も出てきてしまいます。

手・指の会の会員は少人数ですが、盲ろう者も、ろう者も、障害を持たない人もいます。盲ろう者とのコミュニケーション方法を学びながら交流、レクリエーションなどを行っています。年に一回、講演会も開いています。

今年度はお花見会が雨で中止、ららぽーとでの買い物と食事会になりましたが、うどん作りやぶどう狩り、クリスマス会など、みんなで一緒に楽しんでいます。

月2回、第2・4火曜日の午後1時半から3時半まで、おもに中央公民館で活動しています。見学も自由です。ぜひお気軽に遊びに来てください。

エッセイ『大切なものは 目に見えない』

水谷雅弘 著

人が外部から入手する情報量の約8割は、視覚情報だといわれています。そして、視覚情報の最大の特徴は、状況を即座に把握することができるということです。それ故、人の脳は、他の動物と比べて、視覚への依存度が高くなっています。まさに「見れば分かる」「一目瞭然」「百聞は一見にしかず」です。

しかし、そこには落とし穴が潜んでいることもあります。

私が視覚障害者だからという訳ではありませんが、私の好きな言葉の一つに、

『大切なものは 目に見えない』

というものがあります。そしてこの言葉の出所は、サン＝テグジュペリの名作「星の王子さま」が、童話でありながら一方では現代社会を痛烈に風刺した作品でもある、とする宮田光雄氏の著書のタイトルなのです（注1）。

その著書の内容をほんの少しだけ紹介します。「キツネとの出会いー《秘密》のことば」より。・・・別れるとき、キツネは、おみやげに「秘密」をおくりものにすると言います。それは、深い真実のことばでした。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。
かんじんなことは、目に見えないんだよ」

私たちは、日頃、たえず目を皿のようにして、いろいろなものを見ています。けれども、実際に目に入っているのは、外側から眺めたもの、いわば物質的な側面だけなのです。私たちのこころの世界をほんとうに豊かにしてくれる《かんじんなもの》は、実は、こころの目で見なければ見えない、目に見えない世界の中にある、ということです。・・・紹介終り。

私が視覚障害者になったのは、中年と呼ばれる世代の真ただ中にいた時のことです。しかし、私は障害を不幸だとは思っていません。思っていませんが、かなり不便さを感じています。そう、不便なのです。私の生活環境、社会活動において不便さを感じています。つまり、生きていく上において不便ということは、私の障害は、医学的な障害というよりも、社会的障害、社会的障壁ということになります。

視覚障害は情報障害といわれています。ですから、それを補うために、視覚障害者は、聴覚、触覚、嗅覚、味覚、さらには気、気配、第六感、そして記憶と心などを駆使して、全体で感じ取ろうとします。

そうです。私は、「星の王子さま」のように、心の目で見て、心の智で感じ、大切なことを捉まえるように努めてきました。その結果、うれしい気付きがありました。それは、人の心、心遣い、思い、思いやり、優しさ、安らぎ、愛、慈しみ、徳、つながり、関わり合い、助け合いなど、私は多くの人々の溢れる支えのもと

で生きている、という気付きです。そして、それらのことに対して、私は、以前よりも深い感謝と謙虚な気持ちを持てるようになってきていることです。大切なものは、このようなところに宿っていたのです。

もし、完全な自動運転の車が実用化されたら、私の不便さはまた一つ解消されることになるでしょう。しかし、不便さが減少するにしたがって、人は誤った全能感（注2）に陥りやすくなります。そうすると、大切なものを見る目が衰えてきます。

私は、これからも、この気持ちを大切にしていきたいと思います。

注1：「大切なものは 目に見えない－『星の王子さま』を読む－」岩波ブックレット NO.387 宮田光雄著

注2：全能感（ぜんのうかん）とは、自分が何でもできるという感覚。心理学用語。

芸術作品の募集

**「スタート」に載せる
皆さまの作品を募集しています！**

エッセイ・絵画・フォト・ポエムなど、伝えたい気持ちを作品にして
「スタート」に掲載しませんか？
たくさんの作品をお待ちしています。

応募・問い合わせは「自立生活センター東大和」まで☆

TEL：042-567-2622

FAX：042-567-2912

Email：cil-ymt@violin.ocn.ne.jp

市役所 1

市役所 2



KURUMIRU(クルミル) 都内3店舗 開店しました!



東京内に就労継続 B 型事業所は、766 か所あり、その平均工賃は、15,083 円です。この工賃の水準を引き上げるための都の取り組みのひとつとして、都内就労継続支援 B 型事業所の自主製品を販売する「福祉・トライアルショップ」を開設が狙われ、昨年 9 月都庁店がオープン、今年、3 月には伊勢丹立川店 4 階、丸井錦糸町店もオープンしました。



現在出品している事業所は 152 事業所、東大和のあとリエトントン、第 2 あとリエトントン、第一・第二・第三みんなの家も出品しています。



どのお店の KURUMIRU もとてもおしゃれで、デパート内の他のテナントとも引けを取らない、すてきなディスプレイで魅力的です。そのコンセプトは「一般のお店と肩を並べる、障害のある方が作ったことを理由にせず、商品そのものの魅力と品質で勝負する。」



出品を希望する商品は、KURUMIRU 運営事務局にその商品を提案し、品質や包装、お客様のニーズにあうものかなど吟味していただき、注文がきたら納品できるという、なかなか厳しいもの、でもこの取り組みを通じて、品質のいいものを数をそろえて作る事、素敵包装などの意識が高くなり、他の事業所の商品を身近に見ることもでき、とても勉強になります。



おかげさまで、売れ行きは好調で、作業所は 3 店舗への納品に向けて、毎月大忙しです。立川や都庁へいらした方は、是非、KURUMIRU にお立ち寄りください。



新宿店



2017年度 役員紹介

役職	氏名	所属
代表	水谷 雅弘	東大和市視覚障害者福祉協会
副代表	田淵 規子	NPO 法人 自立生活センター・東大和
	平松 美佐子	東大和市手をつなぐ親の会
	森田 由美子	社会福祉法人みんなの会 第二みんなの家
書記	田村 とも子	東大和市障害児の卒後を考える会
	尾又 昇司	NPO 法人 ゆうらんせん
	吉田 敏子	東大和市障害児の卒後を考える会
会計	脇田 正子	個人
世話人	青木 博子	NPO 法人 食工房ぱる
	佐藤 英樹	NPO 法人 自立生活センター・東大和
	岩田 実樹	NPO 法人 自立生活センター・東大和
相談役	海老原 宏美	NPO 法人 自立生活センター・東大和
監査	小林 景子	個人

構成団体

1	NPO 法人アダージョ ライブリィ工房
2	NPO 法人おれんじはあと 精神障害者グループホームなんがい
3	NPO 法人 グループゆう
4	NPO 法人 食工房 ぱる
5	NPO 法人 自立生活センター・東大和
6	NPO 法人生活支援センター207 あとりえトントン
7	NPO 法人生活支援センター207 第2あとりえトントン
8	NPO 法人 東大和けやきの会 PACE
9	NPO 法人 ゆうらんせん
10	NPO 法人リング グランデ
11	社会福祉法人えいぶる かたつむりの会作業所
12	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 グループホーム フレンズ・モエ
13	社会福祉法人 この指とまれ
14	社会福祉法人みんなの会 第一みんなの家
15	社会福祉法人みんなの会 第二みんなの家
16	社会福祉法人みんなの会 第三みんなの家
17	福祉保育労 みんなの家分会
18	合同会社 ソエル
19	株式会社エルヴィエント 就労支援事業所 NOAH
20	東大和市視覚障害者ひとみサークル
21	東大和市視覚障害者福祉協会
22	東大和市肢体不自由児者を守る会つばさ
23	東大和市手話通訳者の会
24	東大和市障害児の卒後を考える会
25	東大和市聴覚障害者協会
26	東大和市手をつなぐ親の会
27	手・指の会

New!

構成団体、個人ともに募集しています。